

基本計画書

基本計画書									
事項		記入欄						備考	
計画区分		研究科の専攻に係る課程の変更							
フリガナ 設置者	コウリツダイガクボウジン シガケンリツダイガク 公立大学法人 滋賀県立大学								
フリガナ 大学の名称	シガケンリツダイガクダイガクイン 滋賀県立大学大学院[The University of Shiga Prefecture]								
大学本部の位置	滋賀県彦根市八坂町2500番地								
大学の目的	滋賀県立大学大学院は、社会的、時代的要請に的確に対応し、専攻分野に関する専門的な学術の理論および応用を教授研究することにより、その深奥を極めて、学術文化の向上と進展に寄与することを目的とする。								
新設研究科等の目的	滋賀県における看護の質の向上および保健医療を取り巻く課題を解決するために、生涯にわたり学際的・国際的な視野から人々の健康と安寧に貢献できる、質の高い看護学教育・研究者および保健・医療・福祉各機関における管理的指導者としての高度看護専門職を育成する。								
新設研究科等の概要	新設研究科等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位	学位の分野	開設時期及び開設年次	所在地
	人間看護学研究科	年	人	年次人	人			年月 第 年次	【基礎となる学部等】 人間看護学部 人間看護学科
	人間看護学専攻	2	8	一一	16	修士 (看護学)	保健衛生学関係 (看護学関係)	令和7年4月 第1年次	
	博士前期課程								
計									
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)	人間看護学研究科人間看護学専攻博士後期課程設置(令和6年8月認可申請)								
教育課程	新設研究科等の名称	開設する授業科目の総数				修了要件単位数			
		講義	演習	実験・実習	計				
	人間看護学研究科 人間看護学専攻 (博士前期課程)	51科目	25科目	14科目	90科目	30単位以上(基盤看護学、生涯健康看護学部門) 40単位以上(高度実践看護学部門) 61単位以上(助产学部門)			
研究科等の名称		専任教員					助手	専任教員以外の助教員(助手を除く)	
		教授	准教授	講師	助教	計			
新設分	人間看護学研究科 人間看護学専攻(博士前期課程)	人 12 (13)	人 8 (8)	人 11 (11)	人 — (—)	人 31 (32)	人 — (—)	人 9 (8)	
	計	12 (13)	8 (8)	11 (11)	— (—)	31 (32)	— (—)	9 (8)	
既設	環境科学研究科 環境動態学専攻(博士前期課程)	10 (10)	10 (10)	8 (8)	— (—)	28 (28)	— (—)	— (—)	
	環境科学研究科 環境計画学専攻(博士前期課程)	10 (10)	9 (9)	7 (7)	— (—)	26 (26)	— (—)	— (—)	
	環境科学研究科 環境動態学専攻(博士後期課程)	10 (10)	10 (10)	5 (5)	— (—)	25 (25)	— (—)	— (—)	
	環境科学研究科 環境計画学専攻(博士後期課程)	9 (9)	9 (9)	7 (7)	— (—)	25 (25)	— (—)	— (—)	
	工学研究科 材料科学専攻(博士前期課程)	6 (6)	6 (6)	3 (3)	— (—)	15 (15)	— (—)	— (—)	
	工学研究科 機械システム工学専攻(博士前期課程)	7 (7)	6 (6)	3 (3)	— (—)	16 (16)	— (—)	— (—)	
	工学研究科 電子システム工学専攻(博士前期課程)	6 (6)	6 (6)	4 (4)	— (—)	16 (16)	— (—)	— (—)	
	工学研究科 先端工学専攻(博士後期課程)	18 (18)	18 (18)	6 (6)	— (—)	42 (42)	— (—)	— (—)	
	人間文化学研究科 地域文化学専攻(博士前期課程)	12 (12)	9 (9)	1 (1)	— (—)	22 (22)	— (—)	— (—)	
	人間文化学研究科 生活文化学専攻(博士前期課程)	12 (12)	12 (12)	7 (7)	— (—)	31 (31)	— (—)	— (—)	
	人間文化学研究科 地域文化学専攻(博士後期課程)	11 (11)	6 (6)	1 (1)	— (—)	18 (18)	— (—)	— (—)	

分	人間文化学研究科 生活文化学専攻（博士後期課程）	11 (11)	12 (12)	4 (4)	- (-)	27 (27)	- (-)	- (-)	※令和7年4月設置認可済
	人間看護学研究科 人間看護学専攻（博士後期課程）	11 (11)	4 (4)	- (-)	- (-)	15 (15)	- (-)	4 (4)	
	計	74 (74)	62 (62)	33 (33)	- (-)	169 (169)	- (-)	4 (4)	
	合 計	75 (76)	66 (66)	44 (44)	- (-)	185 (186)	- (-)	13 (12)	
	職 種	専 属		そ の 他			計		
	事 務 職 員		人 64 (64)		人 88 (88)		人 152 (152)		
	技 術 職 員		3 (3)		15 (15)		18 (18)		
	図 書 館 職 員		9 (9)		- (-)		9 (9)		
	そ の 他 の 職 員		- (-)		- (-)		- (-)		
	指 導 補 助 者		- (-)		- (-)		- (-)		
校 地 等	計		76 (76)		103 (103)		179 (179)		
	区 分	専 用		共 用	共用する他の学校等の専用		計		
	校 舎 敷 地	274,765.81m ²		- m ²	- m ²		274,765.81m ²		
	そ の 他	50,134.65m ²		- m ²	- m ²		50,134.65m ²		
	合 計	324,900.46m ²		- m ²	- m ²		324,900.46m ²		
	校 舎	専 用		共 用	共用する他の学校等の専用		計		
		67,507.64m ² (67,507.64m ²)		- m ² (- m ²)	- m ² (- m ²)		67,507.64m ² (67,507.64m ²)		
図 書 室 等	講義室 等・新設研究科等の専任教員研究室	講義室	実験・実習室		演習室	新設研究科等の専任教員研究室			
		4室		5室		10室	30室		
図 書 ・ 設 備	新設研究科等の名称	図書 〔うち外国書〕冊	学術雑誌 〔うち外国書〕種	機械・器具 点	標本 点	図書館、学術雑誌は研究科単位での特定不能なため、大学全体の数			
	人間看護学研究科 人間看護学専攻 (博士前期課程)	415,618 [67,821] (415,618 [67,821])	818 [0] (818 [0])	2,090 [748] (2,090 [748])	1,729 [63] (1,729 [63])	823 (823)	18 (18)		
	計	415,618 [67,821] (415,618 [67,821])	818 [0] (818 [0])	2,090 [748] (2,090 [748])	1,729 [63] (1,729 [63])	823 (823)	18 (18)		
	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次		
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	教員1人当り研究費等		480千円	480千円	-	-	-		研究科単位での算出不能なため、学部との合計
	共同研究費等		-千円	-千円	-	-	-		
	図書購入費	4,000千円	4,000千円	4,000千円	-	-	-		
	設備購入費	-千円	-千円	-千円	-	-	-		
	学生1人当り 納付金		第1年次 817.8千円(県内) 958.8千円(県外)	第2年次 535.8千円(県内) 535.8千円(県外)	第3年次 - -	第4年次 - -	第5年次 - -		
	学生納付金以外の維持方法の概要	県運営費交付金、施設使用料等収入、寄付金収入、雑収入等							

既設大学等の状況	大學等の名称	公立大学法人滋賀県立大学							
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	収容員率倍	開設年度	所在地
	学部	年	人	年次人	人				
	環境科学部								
	環境生態学科	4	30	—	120	学士 (環境科学)	1.06		
	環境・政策計画学科	4	40	—	160		1.05	平成7年度	
	環境建築デザイン学科	4	50	—	200		1.11	平成20年度	
	生物資源管理学科	4	60	—	240		1.08	平成20年度	
							1.03	平成7年度	
	工学部								
	材料化学科	4	50	—	200	学士 (工学)	1.05		
	機械システム工学科	4	50	—	200		1.10	平成7年度	
	電子システム工学科	4	50	—	200		1.03	平成7年度	
							1.04	平成20年度	
	人間文化学部								
	地域文化学科	4	60	—	240	学士 (人間文化)	1.08		
	生活デザイン学科	4	30	—	120		1.07	平成7年度	
	生活栄養学科	4	30	—	120		1.06	平成20年度	
	人間関係学科	4	30	—	120		1.05	平成20年度	
	国際コミュニケーション学科	4	50	—	200		1.15	平成20年度	
							1.09	平成24年度	
	人間看護学部								
	人間看護学科	4	70	20	300	学士 (看護学)	0.99		
							0.99	平成15年度	
	大学院								
	環境科学研究科								
	博士前期課程								
	環境動態学専攻	2	18	—	36	修士 (環境科学)	0.86	平成11年度	滋賀県彦根市八坂町 2500番地
	環境計画学専攻	2	18	—	36		1.44	平成11年度	
	博士後期課程								
	環境動態学専攻	3	3	—	9	博士 (環境科学)	1.33	平成13年度	
	環境計画学専攻	3	2	—	6	(学術)	1.00	平成13年度	
	工学研究科								
	博士前期課程								
	材料科学専攻	2	18	—	36	修士 (工学)	1.16	平成11年度	
	機械システム工学専攻	2	18	—	36		1.08	平成11年度	
	電子システム工学専攻	2	18	—	36		1.16	平成24年度	
	博士後期課程								
	先端工学専攻	3	3	—	9	博士 (工学)	0.44	平成21年度	
	人間文化学研究科								
	博士前期課程								
	地域文化学専攻	2	9	—	18	修士 (人間文化)	0.5	平成11年度	
	生活文化学専攻	2	7	—	14		0.85	平成11年度	
	博士後期課程								
	地域文化学専攻	3	3	—	9	博士 (人間文化)	0.44	平成13年度	
	生活文化学専攻	3	2	—	6	(学術)	1.33	平成13年度	
	人間看護学研究科								
	修士課程								
	人間看護学専攻	2	8	—	16	修士 (看護学)	1.37	平成19年度	
	人間看護学研究科								
	博士後期課程								
	人間看護学専攻	3	2	—	6	博士 (看護学)	—	令和7年度	
	附属施設の概要								

公立大学法人滋賀県立大学大学院人間看護学研究科人間看護学専攻
博士後期課程設置認可等に關わる組織の移行表

課程の変更

令和6年度

入学定員	編入学定員	収容定員
------	-------	------

公立大学法人
滋賀県立大学

	3年次		
環境科学部			
環境生態学科	30	—	120
環境政策・計画学科	40	—	160
環境建築デザイン学科	50	若干	200
生物資源管理学科	60	—	240
工学部			
材料化学科	50	若干	200
機械システム工学科	50	若干	200
電子システム工学科	50	若干	200
人間文化学科			
地域文化学科	60	—	240
生活デザイン学科	30	—	120
生活栄養学科	30	—	120
人間関係学科	30	—	120
国際コミュニケーション学科	50	—	200
人間看護学部			
人間看護学科	70	10	300
	3年次		
計	600	10	2,420

令和7年度

入学定員	編入学定員	収容定員	変更の事由
------	-------	------	-------

公立大学法人
滋賀県立大学

	3年次		
環境科学部			
環境生態学科	30	—	120
環境政策・計画学科	40	—	160
環境建築デザイン学科	50	若干	200
生物資源管理学科	60	—	240
工学部			
材料化学科	50	若干	200
機械システム工学科	50	若干	200
電子システム工学科	50	若干	200
人間文化学科			
地域文化学科	60	—	240
生活デザイン学科	30	—	120
生活栄養学科	30	—	120
人間関係学科	30	—	120
国際コミュニケーション学科	50	—	200
人間看護学部			
人間看護学科	70	10	300
	3年次		
計	600	10	2,420

公立大学法人 滋賀県立大学大学院 環境科学研究科			
環境動態学専攻 (M)	18	—	36
環境動態学専攻 (D)	3	—	9
環境動態学専攻 (M)	18	—	36
環境動態学専攻 (D)	3	—	6
工学研究科			
材料科学専攻 (M)	18	—	36
機械システム工学専攻 (M)	18	—	36
電子システム工学専攻 (M)	18	—	36
先端工学専攻 (D)	3	—	9
人間文化学研究科			
地域文化学専攻 (M)	9	—	18
地域文化学専攻 (D)	3	—	9
生活文化学専攻 (M)	7	—	14
生活文化学専攻 (D)	2	—	6
人間看護学研究科			
<u>人間看護学専攻 (M)</u>	<u>8</u>	—	<u>16</u>
計	8	—	16

公立大学法人 滋賀県立大学大学院 環境科学研究科			
環境動態学専攻 (M)	18	—	36
環境動態学専攻 (D)	3	—	9
環境動態学専攻 (M)	18	—	36
環境動態学専攻 (D)	3	—	6
工学研究科			
材料科学専攻 (M)	18	—	36
機械システム工学専攻 (M)	18	—	36
電子システム工学専攻 (M)	18	—	36
先端工学専攻 (D)	3	—	9
人間文化学研究科			
地域文化学専攻 (M)	9	—	18
地域文化学専攻 (D)	3	—	9
生活文化学専攻 (M)	7	—	14
生活文化学専攻 (D)	2	—	6
人間看護学研究科			
<u>人間看護学専攻 (M)</u>	<u>8</u>	—	<u>16</u>
<u>人間看護学専攻 (D)</u>	<u>2</u>	—	<u>6</u>
計	10	—	22

課程変更 (届出)
課程変更 (認可申請)

設置の前後における学位等及び基幹教員の所属の状況

届出時ににおける状況				新終了時ににおける状況				
学部等の名称	授与する学位等		基幹教員 異動先	新終了時	学部等の名称		新終了時	
	学位又は称号	学位又は学科の分野			助教以上	うち教授		
人間看護学研究科人間看護学専攻修士課程(廃止)	修士(看護学)	保健衛生学関係(看護学関係)	人間看護学研究科	28	9	人間看護学研究科	28	9
			退職	3	2	新規採用	4	3
			その他	1	0			
			計	32	11	計	32	12
			計			計		
			計			計		
			計			計		

基礎となる学部等の改編状況

開設又は改編時期	改編内容等	学位又は学科の分野	手続きの区分
平成19年4月	人間看護学研究科人間看護学専攻修士課程 設置	保健衛生学関係(看護学関係)	設置認可
平成25年4月	人間看護学研究科人間看護学専攻修士課程 収容定員減(24→16)	保健衛生学関係(看護学関係)	学則変更
令和7年4月	人間看護学研究科人間看護学専攻博士前期課程 設置	保健衛生学関係(看護学関係)	設置届出

別記様式第2号（その2の1）

(用紙 日本産業規格A4縦型)

教育課程等の概要														
(人間看護学研究科人間看護学専攻博士前期課程)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			専任教員等の配置				
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手
共通科目	看護理論	1・2前		2			○			2	5	1		
	看護研究方法論	1・2前		2			○			2	1			
	家族看護学特論	1・2後		2			○			1	1			
	看護政策論	1・2後		2			○			1	1			
	看護教育学	1・2後		2			○			1	1			
	コンサルテーション論	1・2前		2			○			1	1			
	看護倫理	1・2前		2			○			1	1			
	看護管理学	1・2前		2			○			2	2			
	フィジカルアセスメント	1・2後		2			○			3	3			
	病態生理学	1・2後		2			○			1	1			
	薬物治療学	1・2前		2			○			1	1			
	看護英語論文入門	1・2前		2			○			2	1			
	学校保健学	1・2前		2			○							
小計(13科目)				—	—	4	22	0	—	7	4	0	0	0
基盤看護学部門	看護技術学特論	1・2前					○			1				
	看護技術学演習	1・2後		2			○			1				
	人的資源管理論特論	1・2後		2			○			1				
	人的資源管理論演習	1・2後		2			○			1				
	形態機能・生体機構学特論	1・2後		2			○			1				
	形態機能・生体機構学演習	1・2後		2			○			1				
	数理保健学特論	1・2前		2			○			1				
	数理保健学特論演習	1・2後		2			○			1				
	精神看護援助方法論	1・2後		2			○			1	1			
	精神看護関連技法演習	1・2後		2			○			1	1			
	在宅看護学特論	1・2前		2			○			1				
	在宅看護学演習	1・2後		2			○			1				
	公衆衛生看護学特論	1・2前		2			○			2	2			
	公衆衛生看護学演習	1・2後		2			○			3	4	2		
基盤看護学特別研究				1~2通		8								
小計(13科目)				—	—	8	24	0	—	5	4	2	0	0
生涯看護学部門	母性看護学特論	1・2後					○			2	2			
	母性看護学演習	1・2後		2			○			2	2			
	小児家族看護学特論	1・2前		2			○			2	1	1		
	小児家族看護学演習	1・2後		2			○			2	1	1		
	成人継続支援看護学特論	1・2後		2			○			3	1	2		
	成人継続支援看護学演習	1・2後		2			○			1	2			
	老年看護学特論	1・2前		2			○			8	4	8		
	老年看護学演習	1・2後		2			○							
	生涯健康看護学特別研究	1~2通年		8										
小計(9科目)				—	—	8	16	0	—	8	4	9	0	0
高度実践性看護学部門	慢性看護学特論A	1前		2			○			2				
	慢性看護学特論B	1後		2			○			1				
	慢性看護支援論A	1前		2			○			3				
	慢性看護支援論B	1後		2			○			3				
	慢性看護支援論C	1後		2			○			1				
	慢性看護支援論演習I	1後		2			○			1	2			
	慢性看護支援論演習II	2前		2			○			1	2			
	慢性看護学実習I	1後		2			○			1	2			
	慢性看護学実習II	2前		4			○			1	2			
	慢性看護学実習III	2通		4			○			1	2			
	高度実践看護学課題研究	1~2通年		2			○			2				
小計(11科目)				—	—	26	0	0	—	3	0	2	0	0
部門別専門	慢性疾患看護分野のみ													

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数		授業形態			専任教員等の配置						備考										
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	専任教員 （助教員を除く）										
科 目 在 看 宅 護 看 師 護 育 分 成 野 コ ース （助 産 師 育 成 コ ース ）助 産 学 領 域	在宅看護学特論A	1前	在 宅 看 護 分 野 の み	2			○			1					1	オムニバス									
	在宅看護学特論B	1前		2			○			1					1	一部共同									
	在宅看護支援論A	1後		2			○			1					1	オムニバス									
	在宅看護支援論B	1前		2			○			2					1	オムニバス									
	在宅看護支援論C	1後		2			○			1					1	オムニバス									
	在宅看護支援論演習I	1後		2			○			1						集中									
	在宅看護支援論演習II	2前		2			○			1															
	在宅看護学実習I	1後		3			○			1															
	在宅看護学実習II	2前		3			○			1															
	在宅看護学実習III	2通		4			○			1															
	高度実践看護学課題研究	1~2通年		2			○			2															
小計(11科目)		—		26	0	0	—			3	1	0	0	0	2	—									
助 産 学 部 門 （助 産 師 育 成 コ ース ）助 産 学 領 域	助産学概論	1前		1			○			1						オムニバス									
	助産学特論I	1通		2			○			1															
	助産学特論II	1前		2			○			1															
	助産学特論III	1通		1			○			1															
	助産診断技術学特論I	1前		2			○			1															
	助産診断技術学特論II	1前		2			○			1															
	助産診断技術学特論III	1前		2			○			1															
	実践助产学演習I	1前		3			○			1		2				オムニバス									
	実践助产学演習II	1前		1			○			1		1			1	オムニバス									
	助産マネジメント特論	2前		2			○			1		2													
	地域母子保健特論	1後		2			○			1		3				共同									
	助産学実習I	1通		2			○			1		2				共同									
	助産学実習II	1通		8			○			1		2				共同									
	助産学実習III	2前		1			○			2		1				選択必修									
	ウェインズヘルス助産学特論	1前		1			○			1		2				選択必修									
	ウェインズヘルス助産学演習	1後		1			○			1		2				選択必修、共同									
	周産期包括支援特論	1通		2			○			1		1				選択必修									
	周産期包括支援演習	1後		1			○			1		1				選択必修									
	助産倫理特論	1後		1			○			1		2				選択必修、オムニバス									
	国際助産学特論	1・2前		2			○			1		2				選択必修、偶数年									
	健康教育演習	2前		1			○			2		2				選択必修、共同									
	助産学実習IV	2前		2			○			1		1				選択必修									
	助産学実習V	2前		1			○			2		1				選択必修									
	助産学特別研究	1~2通年		8			○			2		2				選択必修									
小計(24科目)		—		39	12	0	—			2	2	3	0	0	1	—									
科 究 講 （ 目 科 他 横 目 專 断 攻 推 全 科 薦 研 開）	環境研究倫理特論	1・2後		2			○								4	オムニバス									
	研究方法論	1前		1			○								3	前半									
	テクニカルコミュニケーション	1前		1			○								3	後半									
	総合工学セミナー	1後		1			○								3	前半									
	小計(4科目)	—		0	5	0	—			0	0	0	0	0	13	—									
教 育 キ 自 由 リ 科 ア 目	インターネットC	1前					1								1	集中									
	インターネットD	1前					2								1	集中									
	インターネットF	1前					3								1	集中									
	小計(3科目)	—		0	0	6	—			0	0	0	0	0	1	—									
合計(90科目)		—		111	79	6	—			13	8	12	0	0	22	—									
学位又は称号		修士(看護学)	学位又は学科の分野			保健衛生学関係(看護学)																			
卒業・修了要件及び履修方法							授業期間等																		
いずれの部門も博士前期課程に2年以上在学すること。							1学年の学期区分								2期										
*基盤看護学・生涯健康看護学部門							1学期の授業期間								15週										
30単位以上(必修12単位および選択科目18単位以上)修得し、かつ必要な研究指導を受けたうえ、修士論文の審査および最終試験に合格しなければならない。							1时限の授業の標準時間								90分										
*高度実践看護学部門																									
40単位以上(必修科目30単位以上、選択科目10単位以上)修得し、かつ必要な課題研究論文の審査および最終試験に合格しなければならない。																									
*助産学部門																									
61単位以上(専攻共通必修科目4単位および専攻共通選択科目から6単位以上と助産部門の必修科目および選択/必修科目の51単位)を修得し、かつ修士論文の審査および最終試験に合格しなければならない。																									

教育課程等の概要														
(人間看護学研究科人間看護学専攻修士課程)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			専任教員等の配置				
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手
共通科目	看護理論	1・2前		2			○			1 4 1	1			
	看護研究方法論	1・2前		2			○			1	1			
	家族看護学特論	1・2後		2			○			1	1			
	看護政策論	1・2後		2			○			1	1			
	看護教育学	1・2後		2			○			1	1			
	コンサルテーション論	1・2前		2			○			1	2		1	
	看護倫理	1・2前		2			○			1	3			
	看護管理学	1・2前		2			○			1	1			
	フィジカルアセスメント	1・2後		2			○			1	1			
	病態生理学	1・2後		2			○			1	2			
	薬物治療学	1・2前		2			○			1	1			
	看護英語論文入門	1・2前		2			○			1	2			
	学校保健学	1・2前		2			○			1	1			
	小計(13科目)	—	—	4	22	0	—	—	—	8	4	0	0	0
基盤看護学部門	看護技術学特論	1・2前		2			○			1				
	看護技術学演習	1・2後		2			○			1				
	人の資源管理論特論	1・2後		2			○			1				
	人の資源管理論演習	1・2後		2			○			1				
	形態機能・生体機構学特論	1・2後		2			○			1				
	形態機能・生体機構学演習	1・2後		2			○			1				
	精神看護援助方法論	1・2後		2			○			1	1			
	精神看護関連技法演習	1・2後		2			○			1	1			
	在宅看護学特論	1・2前		2			○			1				
	在宅看護学演習	1・2後		2			○			1	1			
	公衆衛生看護学特論	1・2前		2			○			1	2			
	公衆衛生看護学演習	1・2後		2			○			1	2			
	基盤看護学特別研究	1~2通		8			○			5	3	2		集中
	小計(13科目)	—	—	8	24	0	—	—	—	5	5	2	0	0
生涯健康看護学部門	母性看護学特論	1・2後		2			○			2	2			
	母性看護学演習	1・2後		2			○			2	2			
	小児家族看護学特論	1・2前		2			○			1				
	小児家族看護学演習	1・2後		2			○			1	1			
	成人継続支援看護学特論	1・2後		2			○			1	1	5		
	成人継続支援看護学演習	1・2後		2			○			1	2			
	老年看護学特論	1・2前		2			○			10	8	6		集中
	老年看護学演習	1・2後		2			○			10	8	10	0	0
	生涯健康看護学特別研究	1~2通年		8			○							
	小計(9科目)	—	—	8	16	0	—	—	—	10	8	0	0	—
高度実践性看護学部門	慢性看護学特論A	1前		2			○			1				
	慢性看護学特論B	1後		2			○			1				
	慢性看護支援論A	1前		2			○			1				
	慢性看護支援論B	1後		2			○			1				
	慢性看護支援論C	1後		2			○			1				
	慢性看護支援論演習I	1後		2			○			1				
	慢性看護支援論演習II	2前		2			○			1				
	慢性看護学実習I	1後		2			○			1				
	慢性看護学実習II	2前		4			○			1				
	慢性看護学実習III	2通		4			○			1				
	高度実践看護学課題研究	1~2通年		2			○			3				
	小計(11科目)	—	—	26	0	0	—	—	—	3	0	2	0	0

科目区分	授業科目的名称	配当年次	主要授業科目	単位数		授業形態			専任教員等の配置					専任教員（助教員を除く）以外の教員	備考											
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手												
専門科目 ・門 在宅看護 看護師 看護育成 分成野 コース (一) ス	在宅看護学特論A	1前	在宅看護分野のみ	2			○			1	1				1											
	在宅看護学特論B	1前		2			○			1	2				1											
	在宅看護支援論A	1後		2			○			1	1				1											
	在宅看護支援論B	1前		2			○			1	1				1											
	在宅看護支援論C	1後		2			○			1	1				1											
	在宅看護支援論演習 I	1後		2			○			1	1				集中											
	在宅看護支援論演習 II	2前		2			○			1	1				集中											
	在宅看護学実習 I	1後		3			○			1	1				集中											
	在宅看護学実習 II	2前		3			○			1	1															
	在宅看護学実習 III	2通		4			○			1	1															
	高度実践看護学課題研究	1~2通年		2			○			2																
助産学部門 (助産師育成コース) 助産領域	小計 (11科目)	—		26	0	0	—			3	1	0	0	0	2	—										
	助産学概論	1前		1			○			1	1															
	助産学特論 I	1通		2			○			1	1															
	助産学特論 II	1前		2			○			1	1															
	助産学特論 III	1通		1			○			1	1															
	助産診断技術学特論 I	1前		2			○			1	1															
	助産診断技術学特論 II	1前		2			○			1	1				1											
	助産診断技術学特論 III	1前		2			○			1	1				1											
	実践助産学演習 I	1前		3			○			1	1				2											
	実践助産学演習 II	1前		2			○			1	1				1											
	助産マネジメント特論	2前		1			○			1	1				共同											
研究講目 横目 専攻 推全科 薦研開	地域母子保健特論	1後		2			○			2	2				共同											
	助産学実習 I	1通		2			○			2	2				共同											
	助産学実習 II	1通		8			○			2	2				共同											
	助産学実習 III	2前		1			○			2	2				共同											
	ウェンズヘルス助産学特論	1前		1			○			1	1				選択必修											
	ウェンズヘルス助産学演習	1後		1			○			2	2				選択必修											
	周産期包括支援特論	1通		2			○			1	1				選択必修											
	周産期包括支援演習	1後		1			○			1	1				選択必修											
	助産倫理特論	1後		1			○			1	1				選択必修											
	国際助産学特論	1・2前		2			○			1	1				選択必修	偶数年										
	健康教育演習	2前		1			○			2	2				選択必修											
教育 / ハイブリッド 科目	助産学実習 IV	2前		2			○			1	1				選択必修	共同										
	助産学実習 V	2前		1			○			2	2				選択必修	共同										
	助産学特別研究	1~2通年		8			○			2	2				集中											
	小計 (24科目)	—		39	12	0	—			2	2	2	0	0	0	—										
	環境研究倫理特論	1・2後		2			○								4	オムニバス										
研究講目 横目 専攻 推全科 薦研開	研究方法論	1前		1			○								3	前半										
	テクニカルコミュニケーション	1前		1			○								3	後半										
	総合工学セミナー	1後		1			○								3	前半										
	小計 (4科目)	—		0	5	0	—			0	0	0	0	0	13	—										
教育 / ハイブリッド 科目	インターネットC	1前					1								1	集中										
	インターネットD	1前					2								1	集中										
	インターネットF	1前					3								1	集中										
	小計 (3科目)	—		0	0	6	—			0	0	0	0	0	1	—										
合計 (89科目)				—	—	111	79	6	—			11	9	12	0	22										
学位又は称号		修士 (看護学)			学位又は学科の分野			保健衛生学関係 (看護学)																		
卒業・修了要件及び履修方法								授業期間等																		
いざれの部門も博士前期課程に2年以上在学すること。								1学年の学期区分								2期										
* 基盤看護学・生涯健康看護学部門								1学期の授業期間								15週										
30単位以上 (必修12単位および選択科目18単位以上) 修得し、かつ必要な研究指導を受けたうえ、修士論文の審査および最終試験に合格しなければならない。								1时限の授業の標準時間								90分										
* 高度実践看護学部門																										
40単位以上 (必修科目30単位以上、選択科目10単位以上) 修得し、かつ必要な課題研究論文の審査および最終試験に合格しなければならない。																										
* 助産学部門																										
61単位以上 (専攻共通必修科目4単位および専攻共通選択科目から6単位以上と助産部門の必修科目および選択/必修科目の51単位) を修得し、かつ修士論文の審査および最終試験に合格しなければならない。																										

別記様式第2号（その2の1）

(用紙 日本産業規格A4縦型)

教育課程等の概要																
科目区分		授業科目的名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
全学共通科目	語学	英語ⅠA (活性化コース)	1前		1				○	○					1	第二外国語IIもしくは実用英語演習Iを選択
		英語ⅠB (活性化コース)	1後		1				○	○					1	
		英語ⅡA (応用コース)	1前		1				○	○					1	
		英語ⅡB (応用コース)	1後		1				○	○					1	
		英語ⅢA (充実コース)	2前		1				○	○					2	
		英語ⅢB (充実コース)	2後		1				○	○					2	
		英語ⅣA (展開コース)	2前		1				○	○					2	
		英語ⅣB (展開コース)	2後		1				○	○					2	
		第二外国語ⅠA (初級コース)	1前		1				○	○					9	
		第二外国語ⅠB (初級コース)	1後		1				○	○					9	
		第二外国語ⅡA (中級コース)	2前		1				○	○					6	
		第二外国語ⅡB (中級コース)	2後		1				○	○					6	
		実用英語演習ⅠA	2前		1				○	○					4	
		実用英語演習ⅠB	2後		1				○	○					4	
		小計(14科目)	-	-	10	4	0	-			0	0	0	0	21	
保健体育	健康・体力科学Ⅰ	1後			1				○	○					6	
	健康・体力科学Ⅱ	2前			1				○	○					6	
	小計(2科目)	-	-	2	0	0	-			0	0	0	0	0	6	
情報処理	情報リテラシー (情報倫理を含む)	1前			2				○	○					1	
	情報科学概論	1後			2				○	○					1	
	小計(2科目)	-	-	4	0	0	-			0	0	0	0	0	1	
人間学	人間探求学	1前			2				○	○					8	オムニバス
	自然のしくみB	1,2,3,4後			2				○	○					1	
	農業と環境A	1,2,3,4後			2				○	○					1	
	食と健康	1,2,3,4前			2				○	○					12	
	人間と病気	1,2,3,4前			2				○	○					1	
	生命・人間・倫理	1,2,3,4後			2				○	○					1	
	生活と健康	1,2,3,4前			2				○	○					1	
	キャリア形成への道B	2,3,4前			2				○	○					1	
	経済学	1,2,3,4後			2				○	○					1	
	憲法	1,2,3,4後			2				○	○					1	
	Japan Studies IV	1,2,3,4後			2				○	○					1	
	アジアフィールド実習Ⅰ	1,2,3,4後			2				○	○					3	集中
	アジアフィールド実習Ⅱ	2,3,4後			2				○	○					3	
	自然のしくみA	1,2,3,4後			2				○	○					1	オムニバス
	名著から学ぶ環境問題	1,2,3,4後			2				○	○					9	
	都市・建築を考える	1,2,3,4前			2				○	○					1	オムニバス
	生活の中にみる力学	1,2,3,4後			2				○	○					1	
	コンピュータとインターネット	1,2,3,4後			2				○	○					1	必修以外の科目から4単位を選択
	地域と文化	1,2,3,4前			2				○	○					1	
	歴史と文化	1,2,3,4後			2				○	○					1	オムニバス
	人間関係の科学A	1,2,3,4前			2				○	○					5	
	人間関係の科学B	1,2,3,4後			2				○	○					5	
	国際文化学概論	1,2,3,4前			2				○	○					1	オムニバス
	差別と人権(同和問題)	1,2,3,4前			2				○	○					1	
	キャリア形成への道A	1,2,3,4前			2				○	○					1	オムニバス
	Japan Studies VII	1,2,3,4前			2				○	○					1	
	World Societies I	1,2,3,4前			2				○	○					1	集中
	World Societies II	1,2,3,4後			2				○	○					1	
	異文化理解A	1,2,3,4前			2				○	○					1	オムニバス
	都市・建築をつくる	1,2,3,4前			2				○	○					1	
	農業と環境B	1,2,3,4後			2				○	○					1	オムニバス
	暮らしの中の材料	1,2,3,4前			2				○	○					2	
	自然科学入門	1,2,3,4前			2				○	○					1	

	機械の再発見	1, 2, 3, 4後		2		○							1	
	機械の役割と仕組み	1, 2, 3, 4前		2		○							1	
	技術の歴史	1, 2, 3, 4後		2		○							1	
	電子社会と人間	1, 2, 3, 4後		2		○							1	
	電子システムの最先端	1, 2, 3, 4前		2		○							17	オムニバス
	比較住居論	1, 2, 3, 4前		2		○							1	
	ジェンダー平等をつくる	1, 2, 3, 4前		2		○							4	オムニバス
	小計 (40科目)	—	—	4	76	0	—						82	オムニバス
地域基礎科目	地域共生論	1前		2		○							1	
	地域コミュニケーション論	1, 2, 3, 4後		2		○							1	
	地域づくり人材論	1, 2, 3, 4後		2		○							1	
	びわこ環境行政論	1, 2, 3, 4後		2		○							1	
	地域社会福祉論	1, 2, 3, 4後		2		○							1	
	多文化共生論	1, 2, 3, 4前		2		○							1	
	地域産業・企業から学ぶ社長講義	1, 2, 3, 4後		2		○							1	
	SDGsと滋賀のグローカル・イノベーション	1, 2, 3, 4前		2		○							1	
	近江の美	1, 2, 3, 4前		2		○							7	
	地域診断法	1, 2, 3, 4後		2		○							1	
	ソーシャル・ビジネス概論	1, 2, 3, 4後		2		○							2	
	世界遺産のまちづくり・人づくり	1, 2, 3, 4後		2		○							1	
	小計 (12科目)	—	—	4	0	20	—						14	オムニバス
専門基礎科目	解剖生理学 I	1前		2		○							1	
	解剖生理学 II	1後		2		○							2	
	生化学	1前		1		○							1	
	病理学総論	1後		1		○							1	
	微生物学／免疫学	1前		2		○							1	
	薬理学	2前		2		○							1	
	疾病論 I	2前		2		○							5	
	疾病論 II	2後		2		○							4	
	疾病論 III	2後		2		○							3	
	疫学	2後		2		○							1	
	栄養学	2後		1		○							1	
	精神保健論	1後		2		○							1	
	公衆衛生学	2前		2		○							1	
	小計 (13科目)	—	—	23	0	0	—						16	
専門科目	必修科目	人間看護学概論	1前		2		○						1	
		基礎看護技術 I (コミュニケーション・生活環境)	1前		2		○						1	
		基礎看護技術 II (生活行動援助)	1後		2		○						2	
		基礎看護技術 III (フィジカルアセスメント・臨床看護)	2前		2		○						2	
		基礎看護技術 IV (看護過程)	2前		1		○						1	
		看護理論	2後		2		○						1	
		基礎看護学実習 I	1前		1		○						2	
		基礎看護学実習 II	2前		2		○						2	
		成人看護学概論	1後		1		○						1	
		成人看護学	2前		2		○						1	
		健康危機回復支援演習 I (慢性期)	2後		1		○						5	
		健康危機回復支援演習 II (急性期)	3前		1		○						1	
		緩和ケア演習	3前		1		○						2	
		健康危機回復支援実習	3通		4		○						7	
		緩和ケア実習	3通		2		○						7	
		老年看護学概論	2前		1		○						1	
		老年看護学	2後		2		○						1	
		在宅療養移行支援演習	3前		1		○						3	
		在宅療養移行支援実習	3通		2		○						7	
		小児看護学概論	1前		1		○						1	
		小児看護学	2後		2		○						1	
		小児看護学演習	3前		1		○						1	
		小児看護学実習	3通		2		○						1	
		母性看護学概論	1後		1		○						1	
		母性看護学	2前		2		○						2	
		母性看護学演習	3前		1		○						2	
		母性看護学実習	3通		2		○						2	
		精神看護学概論	1後		1		○						1	
		精神看護学	2後		2		○						1	
		精神看護学演習	3前		1		○						1	
		精神看護学実習	3通		2		○						1	
		集中												
		集中												

在宅看護学概論 在宅看護学 在宅看護学演習 I 在宅看護学演習 II 在宅看護学実習 地域（健康）生活実習 I 地域（療養）生活実習 II 看護管理学 家族看護学 国際看護学 公衆衛生看護学概論 看護研究の基礎 人間看護学統合実習 I 人間看護学統合実習 II 卒業研究	2前		2		○ ○		1	1									
	2後		2		○ ○		1	1	2								
	3前		1		○ ○		1	1	2								
	3前		1		○ ○		2	3	7								
	3通		2		○ ○		2	3	7								
	1前		1		○ ○		1	1	2								
	4前		1		○ ○		1	1	1								
	4前		2		○ ○		1	1	1								
	3前		1		○ ○		1	1	1					1			
	3前		1		○ ○		1	1	1								
	2前		2		○ ○		1	1	1								
	3通		1		○ ○		3	2									
	4前		1		○ ○		10	9	16								
	4前		1		○ ○		10	9	16								
	4通		4		○ ○		10	9	14								
小計（46科目）		—	—	73	0	0	—	10	9	16	0	0	4				
看護実践 看護実践 看護実践 クリティカルケア実践演習 チャイルドライフケア論 ホリスティックケア論 看護英語実践 災害看護学 ボランティア実践演習	看護キャリアデザイン論	3, 4前		1	○ ○		1	1	1				1				
	看護教育と実践	4前		1	○ ○		1	1	2								
	健康教育論	3前		2	○ ○		1	1	1								
	クリティカルケア実践演習	4前		1	○ ○		1	1	1								
	チャイルドライフケア論	4前		1	○ ○		1	1	1								
	ホリスティックケア論	3, 4前		1	○ ○		1	1	2								
	看護英語実践	1, 2, 3, 4後		1	○ ○		2	2	2								
	災害看護学	3, 4前		1	○ ○		1	1	2				4				
	ボランティア実践演習	4前		1	○ ○		6	4	8	0	0	0	5				
小計（9科目）		—	—	0	10	0	—	10	9	16	0	0	149				
合計（138科目）		—	—	120	90	20	—	10	9	16	0	0	149				
学位又は称号		学士（看護学）			学位又は学科の分野			保健衛生学関係（看護学関係）									
卒業・修了要件及び履修方法							授業期間等										
4年以上在学し、全学共通科目30単位以上、専門基礎科目23単位以上、専門科目76単位以上、合計129単位以上を修得すること。そのうち語学については第二外国語IIもしくは実用英語演習Iから2単位以上、人間学の選択科目から4単位以上、専門科目の選択科目から3単位以上を修得すること。							1学年の学期区分			2期							
							1学期の授業期間			15週							
							1限時の授業の標準時間			90分							

授業科目の概要				
人間看護学研究科博士前期課程人間看護学専攻				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専攻共通科目	看護理論		<p>看護学の歴史と哲学、論理的思考、理論開発等を探求し、看護現象を把握するための能力を高める。看護理論の発展過程を踏まえながら、理論と実践との適用・課題、看護研究との関連について考察する。また、看護実践の基盤となる諸理論の分析と評価を行い、理論と看護現象との関係について考究する。</p> <p>(オムニバス全15回) (3 本田 可奈子/13回)</p> <p>看護理論の歴史的変遷と発展過程、看護理論の構成要素・理論枠組み、代表的な看護理論の理解、中範囲理論の理解 (4 牧野 耕次/2回)</p> <p>インボルブメント理論</p>	オムニバス
	看護研究方法論		<p>実践研究に必要な看護学の科学的アプローチの方法を理解し、量的研究および質的研究のプロセスを概観するとともに妥当性・信頼性の高い方法論について教授する。</p> <p>(オムニバス全15回) (9 古株 ひろみ/2回)</p> <p>看護研究の定義、研究の意義を理解し、自己の研究疑問を探求する (8 竹村 淳子/2回)</p> <p>自己の関心領域の看護現象の概念・キーワーズを探求する。 (5 藤井 誠/6回)</p> <p>量的研究の基礎的な概要と、看護研究遂行上必要となる統計的知識、量的研究論文をクリティイークする視点・方法について教授する。 (4 牧野 耕次/4回)</p> <p>質的研究(質的研究のデザイン、グラウンデットセオリー、質的記述的研究など)の基礎的な概要と、質的研究論文をクリティイークする視点・方法について教授する。 (3 本田 可奈子/1回)</p> <p>研究倫理の原則について教授する。</p>	オムニバス
	家族看護学特論		<p>(オムニバス全15回) (9 古株 ひろみ/8回)</p> <p>看護活動に共通する家族の今日の課題を中心に家族の機能の変遷を探求し、家族システム理論などの家族看護に関する理論及び家族看護の役割と機能について教授する (8 竹村淳子/7回)</p> <p>家族を取り巻く現状を理解し家族看護に関する理論から家族をアセスメントする視点を追求し、事例検討を通して課題解決の方策を探求する</p>	オムニバス
	看護政策論		<p>国・都道府県・市町村における社会・医療のニーズに対する看護政策の在り方とその政策過程を理解する。また看護政策が策定される過程を検討し、住民の健康課題の解決に寄与できる看護政策立案に向けて政策策定能力の基礎的能力を養う。</p>	
	看護教育学		<p>看護学教育の変遷・現状と課題について、教育制度・教育課程・教育組織運営から概観するとともに、看護学の授業展開を支える学習理論や知識の活用法について講義する。また、授業設計の方法については、講義および実際の教授活動の見学・教育補助体験での学びをもとに個別に考案してもらう。さらに、看護学教育における省察を行うとともに、看護職育成のための基礎理論や技法をもとに、「看護職が専門職として成長し続けるために有効な教育的働きかけ」について考究してもらう。</p> <p>(オムニバス全15回) (1 伊丹 君和/13回)</p> <p>看護学教育の変遷・現状と課題について講義する。さらに、看護学の授業展開を支える理論と知識をもとに、授業設計と展開の評価について考究する。また、看護学教育における省察を行う。 (14 米田 照美/2回)</p> <p>看護職育成のための基礎理論や技法について講義する。さらに、看護職が専門職として成長し続けるための有効な教育的働きかけについて考究する。</p>	オムニバス
	コンサルテーション論		<p>この授業は、アンソニー・オブホルツァーらの「組織のストレスとコンサルテーション」の理論的枠組みを基に講義を展開していく。コンサルタントの役割、組織、対人援助サービス、介入と評価などを論じ、医療の専門職や医療従事者が直面する課題や困難・問題に対処するための基礎能力を養う。そのため、授業の中では、院生同士でコンサルテーションに関するディスカッションや演習を行う。また、専門看護師(精神看護専門看護師)から講義を受けることで、臨床現場におけるコンサルテーションの実際について学びを深める。</p> <p>(21川田 陽子／4 牧野 耕次／15回)</p> <p>川田は、学生のプレゼンテーションに対して、ディスカッションを促し、精神看護専門看護師の臨床経験をもとに、解説および助言を行う。</p> <p>牧野は、組織のマネジメントの視点からの解説および助言を行う。</p>	共同
	看護倫理		<p>現代社会における倫理的課題について概観し、人の生と死、個人の尊厳と権利、安全で安寧や生活、健康をめぐる様々な倫理的課題とその解決の方略を検討する。その中で、高度実践看護師の役割・責任について、看護倫理学の視点から探求する。</p>	

看護管理学		<p>組織行動論は経営にまつわる要素の中で「人間」に焦点を当てた学問である。まさに看護は対人関係を中心におき、組織は人間行動により成り立っている。本講義では、看護実践に影響を与える組織行動に関する概念を取りあげ、看護組織の課題を検討でき、看護管理の方法を見出せる能力を培う。また、医療安全管理・教育についても現状を踏まえ、事例・研究成果をもとに検討する。</p> <p>(オムニバス全15回) (3 本田 可奈子/6回)</p> <p>看護とマネジメント、組織行動に関する諸概念の理解、今後の看護管理の課題について (14米田 照美/5回)</p> <p>日本の医療安全教育の現状、危険認知にかかる看護実践能力、看護教育における医療安全、臨床でのヒヤリハットの現状と課題 (ゲストスピーカー/4回)</p> <p>組織行動論と経営、医療経済</p>	オムニバス
フィジカルアセスメント		<p>複雑な健康問題をもつ人々の身体状況について系統的に全身を診察し、看護に必要なデータを得る技法を学ぶ。得られた所見から、高度実践看護に必要な臨床判断を行う能力を養う。また、在宅におけるフィジカルアセスメントの特徴についても学ぶ。</p> <p>(オムニバス全15回) (5 藤井 誠/11回)</p> <p>eラーニング学習対応、診断とスクリーニングによる統計学的評価、身体診察の基本技術・呼吸器系・循環器系・消化器系・脳神経系・筋骨格系のフィジカルアセスメント (38松井 善典/2回)</p> <p>在宅におけるフィジカルアセスメント (10糸島 陽子/2回)</p> <p>小児CNS・NPによるフィジカルアセスメント</p>	オムニバス
病態生理学		<p>様々な症状や徵候を呈する各疾患の病態生理を生理検査・画像検査の所見と関連付けて学ぶ。さらに、症例検討を通じて、病気の徵候や病態生理学的变化を的確に把握し、高度な看護実践につなげるための総合的能力を養成する。</p> <p>(オムニバス全15回) (5 藤井 誠/13回)</p> <p>循環器系疾患、呼吸器系疾患、消化器系疾患、泌尿器系疾患、筋骨格系疾患、神経系疾患、血液系疾患、内分泌系疾患 (10糸島 陽子/1回)</p> <p>各疾患の看護介入 (13久保 美紀/1回)</p> <p>各疾患の看護介入2</p>	オムニバス
薬物治療学		<p>薬物療法に関する情報は増加の一途にあり、新しい薬理作用を持つ薬物が次々と実地臨床に登場している。種々の疾患に対して、科学的根拠に基づいた薬剤選択を行うためには、薬物に関する情報を的確に整理し活用することが重要である。さらに、薬理作用や副作用発現のメカニズムを熟知することも必要となる。本講義では、薬物の働きを体系的に学習し、薬理作用や副作用発現のメカニズムを理解する。さらに、薬剤を使用する患者の生活調整、回復力の促進、服薬管理能力の向上を図るために高度実践看護師としての支援技術を検討する。</p> <p>(全15回一部共同) (33天ヶ瀬 紀久子/15回)</p> <p>上記内容 (13久保 美紀/1回)</p> <p>発表とディスカッション</p>	共同
看護英語論文入門		<p>研究とは、過去の知識の上に新しい知識を積み上げて行く行為である。したがって、論文購読は研究活動の中で大きな比重を占めている。とくに看護学を含む生命科学は、世界共通の学問であるため、英語論文の購読は看護学研究にとって必要不可欠な作業である。本講義では、各学生が今読まなければならない、あるいは今読みたいと思っている看護英語論文をもらって、相互に読み進めていく。英語論文に慣れ、独力で英語論文が読めるようになることを目標にする。</p>	
学校保健学		<p>学校保健は児童生徒が安全で安心に学校生活を送ることができるよう日々の健康を守るだけでなく、児童生徒が自ら健康な生活を実践できる教育により、成長・発達を促す目的をもって行われる活動である。本授業では、学校保健の目的、機能及び実践内容を省察し教育現場における保健管理、保健教育、組織運営について心身の健康問題を取り上げ、学校保健の重要性について理解を深めるとともに、健康課題の解決に向けて探求する力を身に付けることをねらいとしている。具体的には、(1) 養護教諭による実践的課題の追求、(2) 保健統計による分析、(3) 児童生徒の心身の健康課題について、スクールカウンセリングや小児看護、慢性疾患看護の視点からの追及、(4) 学校保健を取りまく社会のニーズに基づく研究課題を創造的に解決する方策を探求する。</p> <p>(オムニバス全15回) (34八木利津子/7回)</p> <p>学校教育における養護教諭としての実践的課題の追求、初等教育における学校保健を取りまく社会のニーズに基づく研究課題を創造的に解決する方策の追求 (19小林 孝子/2回)</p> <p>児童生徒の心身の健康や保健に関する実態を分析する (9古株 ひろみ/4回)</p> <p>児童生徒のこころの健康課題の追求、児童生徒の身体的健康課題の追求 (10糸島 陽子/2回)</p> <p>児童生徒の身体的健康課題の追求</p>	オムニバス
専門科目	看護技術学特論	専門性の高い科学としての看護を実践するための基盤となる看護技術について、科学と技術の概念、その発達史の概略を説明し、看護技術の意味と目的を考察する。また、看護技術に携わる者としての社会的役割、責任など倫理的課題について認識を深めてもらうよう授業を進める。さらに、人を対象とする技術の特性、看護技術の基本的方法論について概説し、エビデンスの検証、現在の研究知見と看護実践および教育への適応について考究してもらう。	
	看護技術学演習	看護技術のエビデンスの検証方法、介入方法の検証法を探求するよう演習を行う。また、看護技術学に関連する国内外の関連文献ならびに関連領域の研究をクリティックする力を養い、自己の研究課題の焦点化と研究デザインの基礎を培うよう授業を進めていく。	

人的資源管理論特論		医療福祉組織において中心的役割を果たす看護職の人材確保・育成・人的活用についてとくに人的資源管理の視点から概説し、看護組織力を高め、人を活かす（活用する）考え方を探求する。	
人的資源管理論演習		看護職の人材資源管理に関する先行研究を批判的検討する力を養い、自己の研究課題を明確にする。	
形態機能・生体機構学特論		神経疾患の診察法や生理検査、画像検査に触れるとともに、代表的な疾患の病態生理と看護法について学ぶ。	
形態機能・生体機構学演習		神経疾患の症例について、経過、神経症候、検査結果、画像所見を呈示する。特論で学んだ内容をもとに、各症例について検討する。	
数理保健学特論		看護学の研究者として、臨床上の課題を数理的手法によって解明することは科学的な看護（Evidence Based Nursing）の実践のために重要である。その追求には保健医療関連だけでなく、統計学、疫学、工学、情報学等、学際的な知識・方法論を身につける必要がある。本講義では、統計学、疫学の基礎と応用、臨床/疫学研究のデザインを構築する能力を高めることを目的とし、EBN実践のために、数理的手法を看護学に適用するための方法論を学ぶ。具体的には、臨床看護実践上の過程から生じる課題を、臨床/疫学で取り扱う課題（異常、診断、頻度、リスク、予後、治療、予防）として、実例を用いて学習する。	
数理保健学特論演習		看護学分野の研究職として、臨床上の課題を数理的手法によって解明する能力を身につけることは、科学的な看護（Evidence Based Nursing）の実践に向けた研究計画を立案するために重要である。その追求には保健医療関連だけでなく、統計学、疫学、工学、情報学等、学際的な知識・方法論を身につける必要がある。本演習では、保健医療分野における現代の数理的手法の事例に基づき、解説とディスカッションを通じ、思考プロセスをみにつけ、コミュニケーション能力とリーダーシップ能力を備えた他職種連携に貢献する高度専門職として必要な課題の多面性を理解し、臨床看護に貢献できる人材を育成することを目指す。	
精神看護援助方法論		看護介入の基本を提供するため、精神病理のアセスメントと診断のためのパラダイム（理論的枠組み）強調し、「異常」といわれる基本的な特質について学習する。病因学・症候学・病気の経過や見通しに関する研究成果を概念づけるために、相互作用的研究パラダイムについても学習する。 (4牧野　耕次／21川田　陽子／15回) 牧野は、精神病理に関する学生のプレゼンテーションに対して、ディスカッションを促し、主に学術的な視点から助言を行う。川田は、学生のプレゼンテーションに対して、精神看護専門看護師の視点から臨床的な助言を行う。	共同
精神看護関連技法演習		精神の医療・看護に関与する専門職者として、精神看護に関連した技法について学び、看護師としてその技法を用いるための方法論を修得することを目的とする。 (4牧野　耕次／21川田　陽子／15回) 牧野は、関連技法の事例に関する学生のプレゼンテーションに対して、ディスカッションを促し、その技法による患者や症状への影響を理論的な解説を行う。川田は、学生のプレゼンテーションに対して、精神看護専門看護師の視点から臨床的な助言を行う。	共同
在宅看護学特論		在宅療養者とその家族の健康上の問題に対して提供される看護の現状と課題を探究し、生活の場に応じた看護課題の解決に向けた方策について考察する能力を培うことができるよう教授する。	
在宅看護学演習		在宅療養者およびその家族を支えるための看護実践を探求する能力が培われるよう教授する。また、在宅看護学に関連する国内外の文献をクリティーカルする力を養い、自己の研究課題の焦点化と研究デザインを吟味する能力を培うことにつなげる。	
公衆衛生看護学特論		公衆衛生看護の発展の歴史から、概念や活動の理論的根拠を理解し、地域ヘルスケアの質の向上に寄与できる視点を確立する。さらに地域の人びとの健康ニーズの把握・アセスメント・看護活動の計画・実施・評価の過程が理解でき、住民と協働する公衆衛生看護活動のあり方を主体的に学ぶ。 (オムニバス全15回) (19小林 孝子／10回) 地域ヘルスケアと看護活動、公衆衛生看護の歴史と発展、健康ニーズと活動の評価 (20馬場 文／5回) 公衆衛生看護活動の理論的根拠	オムニバス
公衆衛生看護学演習		公衆衛生看護活動の歴史と変遷をふまえた諸理論について検討し、知識を深める。人びとの潜在化した健康課題を顕在化し、個別支援からグループ支援、地域での健康活動へと推進する高度な専門的能力を養成する。また、基礎となる考察力を高めるために文献講読を行う。国内外の活動事例を検証する過程で、その活動の有効性や課題について考察し、研究活動を行う上での資料とする。 (オムニバス全15回) (19小林 孝子／10回) 健康課題の明確化、健康課題に関連する概念の明確化、健康課題解決に向けた文献講読 (20馬場 文／5回) 健康課題と解決に向けた方法論の検討、健康課題に関連する論文のクリティーカル	オムニバス

母性看護学特論		<p>女性の健康支援に用いられる諸理論や諸概念を理解し、リプロダクティブヘルス/ライツに関する今日的課題を追求するとともに、ライフステージからみた女性の健康問題や周産期母子および家族の看護ニーズへの看護援助方法を探究する。</p> <p>(オムニバス全15回) (12千葉 陽子／4回) リプロダクティブヘルス/ライツと母性看護 (11越山 雅文／3回) 母性看護学分野における研究 (17古川 洋子／4回) 女性の健康維持増進・周産期看護に関する現状と課題 (16板谷 裕美／4回) 女性の健康と看護</p>	オムニバス
母性看護学演習		<p>女性の健康支援に関する国内外の関連論文を購読し、研究方法を探求するとともに、実践への適用を検討する。</p> <p>(オムニバス全15回) (12千葉 陽子／4回) リプロダクティブヘルス/ライツと支援 (11越山 雅文／3回) 女性生殖器疾患と看護 (17古川 洋子／4回) 周産期における看護 (16板谷 裕美／4回) 母性看護における看護支援モデルの検討</p>	オムニバス
小児家族看護学特論		<p>代表的な発達に関連する理論を基に、子どもの成長発達と家族機能を理解し子どもと家族のQOLへのアプローチについて探求する</p> <p>(オムニバス全15回) (8竹村 淳子／6回) ボウルビー愛着理論などから子どもやその家族へのアプローチを探求する (9古株 ひろみ／5回) ピアジェ 認知発達理論から子どもやその家族へのアプローチを探求する (18川端 智子／2回) エリクソン自我発達理論などから子どもやその家族へのアプローチを探求する (24玉川あゆみ／2回) 心の理論などから子どもやその家族へのアプローチを探求する</p>	オムニバス
小児家族看護学演習		<p>各期の発達段階にある子どもとその家族の状態について、倫理的配慮を含めて括弧的に査定・援助する方法を議論させる。また、子どもを取り巻く現状と看護職者としての課題及び援助方法について探究する。社会の動向を捉えて自己の問題解決能力を向上させる。</p> <p>(オムニバス全15回一部共同) (8竹村 淳子／6回) 乳児前期・幼児前期に起こりえる健康問題や事故とそれらの予防について追究する。 (24玉川あゆみ／3回) 幼児期後期に起こりえる健康問題や事故とそれらの予防について追究する。 (9古株 ひろみ／6回) 学童期に起こりえる健康問題や事故とそれらの予防について追究する。 (18川端 智子／3回) 思春期に起こりえる健康問題や事故とそれらの予防について追究する。</p>	オムニバス、一部共同
成人継続支援看護学演習		<p>継続的な健康障害を有する成人期にある人々の心身・生活上の諸問題について、アセスメントするための理論とERNに基づいた看護技術について探求する。また、成人継続看護学に関連する国内外の文献をクリティックする力を養い、自己の研究課題と研究デザインを考える。</p> <p>(オムニバス一部共同 全15回) (10糸島 陽子／2回) 終末期にある患者、および家族に関する文献のクリティックを通して、自己の課題と研究デザインを考える。 (13久保 美紀／3回) 慢性期にある患者、および家族に関する文献のクリティックを通して、自己の課題と研究デザインを考える。 (15荒川 千登世／2回) 急性期・回復期にある患者、および家族に関する文献のクリティックを通して、自己の課題と研究デザインを考える。 (29生田 寂里／1回) 急性期・回復期にある患者、および家族に関する文献のクリティックを通して、自己の課題と研究デザインを考える。 (27小野 あゆみ／1回) 終末期にある患者、および家族に関する文献のクリティックを通して、自己の課題と研究デザインを考える。 (7赤澤 千春／2回) 概念分析・尺度開発に関する文献のクリティックを通して、自己の課題と研究デザインを考える。 (全員／4回)</p> <p>担当内容：研究デザイン・研究計画書の作成</p>	オムニバス、一部共同

成人継続支援看護学特論	<p>成人継続看護に有用な概念・理論・看護モデルについて学び、事例分析をとおして健康障害を有する人々への継続看護について探求する。 (オムニバス 一部共同 全15回) (10糸島 陽子／5回)</p> <p>成人期の特徴・健康課題、成人期の健康と生活を守る保健・医療・福祉に関する政策について調べ、対象の背景を理解する。</p> <p>終末期看護学で用いられる概念・理論・看護モデルについて調べ、対象に必要な継続看護について探求する。 (15荒川 千登世／3回)</p> <p>急性期看護学で用いられる概念・理論・看護モデルについて調べ、対象に必要な継続看護について探求する。 (7赤澤 千春／3回)</p> <p>回復期看護学で用いられる概念・理論・看護モデルについて調べ、対象に必要な継続看護について探求する。 (13久保 美紀／3回)</p> <p>担当内容：慢性期看護学で用いられる概念・理論・看護モデルについて調べ、対象に必要な継続看護について探求する。 (全員／1回)</p> <p>担当内容：関心領域の概念・理論・看護モデルを用いて事例分析を行い、継続看護について探求する。</p>	オムニバス、一部共同
老年看護学特論	高齢者とその家族等の生活や健康の実態をもとに、高齢者のセルフケア、家族等や医療、福祉施設における高齢者へのケアについて文献等を用いて分析し、高齢者の生活や健康に関する課題を見出す。	
老年看護学演習	高齢者やその家族等に関する文献から健康と生活、ケアに関する現状と課題を明らかにする。 (6岡本紀子、28松井宏樹／15回共同)	共同
慢性看護学特論A	<p>慢性病者とその家族の心理的特徴や行動の理解を深める諸理論の内容を学習し、慢性看護の実践と研究への適用を探求する。 (オムニバス全15回) (13久保 美紀／10回)</p> <p>慢性・長期的な疾患や障害とともに生きる人の理解する（国内外の疫学的特徴、疾病構造の変遷） (10糸島 陽子／5回)</p> <p>慢性・長期的な疾患や障害が本人・家族に及ぼす影響を理解する（家族システムと発達段階、疾病プロセスと心理・行動に関する理論）</p>	オムニバス
慢性看護学特論B	<p>健康に対する考え方の変移から慢性病をもつ人に適用してきた医療・福祉の制度や体制を学び、今日、慢性病を取り巻く様々な場面でのヘルスプロモーションを把握するとともに、今後の課題や新たな医療・福祉制度を追求する。 (オムニバス全15回) (13久保 美紀／11回)</p> <p>慢性・長期的な疾患や障害とともに住み慣れた場所で生活するための症状コントロール、対象のセルフケア能力と強みを生かした日常生活の調整について探求する (2新井 香奈子／3回)</p> <p>慢性・長期的な疾患や障害とともに生活する人の療養の場を理解し、その人にとって最適な療養環境について考察する</p> <p>最適な療養環境の構築に向けて医療専門家による支援や医療福祉制度・政策について探求する (35角野 文彦／3回)</p> <p>慢性・長期的な疾患や障害とともに住み慣れた場所で生活するための医療・福祉施策について探求する</p>	オムニバス
慢性看護支援論A	<p>生活者としての慢性病者を支援するための諸理論やモデルに基づく支援技術を概観する。 (オムニバス全15回) (13久保 美紀／5回)</p> <p>慢性期看護領域の主要概念・理論を学修し実践への適用に向けて探求する (10糸島 陽子／5回)</p> <p>慢性・終末期看護領域の主要概念・理論を学修し実践への適用に向けて探求する (7赤澤 千春／5回)</p> <p>慢性・終末期看護領域の主要概念・理論を学修し実践への適用に向けて探求する</p>	オムニバス
慢性看護支援論B	<p>慢性病の様々な時期における看護の支援技術について理解を深め、慢性病者のエンドオブライフにおける支援技術について追求する。 (オムニバス全15回) (10糸島 陽子／5回)</p> <p>慢性疾患の特徴、慢性看護学領域における主要な概念・理論を課題文献を通して理解を深める (13久保 美紀／5回)</p> <p>慢性・終末期看護学領域における主要な概念・理論を課題文献を通して理解を深める (7赤澤 千春／2回)</p> <p>慢性・終末期看護学領域における主要な概念・理論を課題文献を通して理解を深める (ゲストスピーカー／3回)</p> <p>担当内容：慢性・終末期患者の療養生活を支援するために治療的側面から理解を深める</p>	オムニバス

慢性看護支援論C		<p>慢性病者の質の高い生活に向けて、一次予防、二次予防、三次予防における治療環境の整備や、地域支援の現状と課題について検討する。特に治療、医療処置の必要な慢性病者の退院支援における院内連携・地域連携を促進するためのトランジショナルケアについて追求する。</p> <p>(オムニバス全15回) (13久保 美紀／5回)</p> <p>慢性疾患をもちらながら生活するための健康維持増進活動、社会参加の推進について当事者の視点で理解する (36伊波 早苗／4回)</p> <p>専門看護師による外来看護とトランジショナルケア、社会資源の活用、コンサルテーション (38松井 善典／2回)</p> <p>在宅医療の役割と課題 (39山本 弥生／4回)</p> <p>在宅セルフマネジメント支援、地域資源の活用、在宅ケアチーム、コンサルテーション</p>	オムニバス
慢性看護支援論演習 I		<p>主な慢性病者のフィジカルアセスメントの知識と技術の習得をはじめ、事例をとおして心理・社会的特徴からの包括的アセスメントを行い、治療と統合的アプローチの視点を学ぶ。</p> <p>(オムニバス 一部共同 全15回) (13久保 美紀／4回)</p> <p>慢性疾患看護の専門領域（サブスペシャリティ）に関する関心事の焦点化 (26喜多下 真里／4回)</p> <p>担当内容：慢性・長期的な疾患や障害とともに生活する人とその家族を理解し、効果的に支援するための看護介入モデルの構築 (30片山 将宏／4回)</p> <p>担当内容：慢性・長期的な疾患や障害に伴う苦痛、治療の作用、副作用に対するアセスメントと援助方法の探求 (全員／3回)</p> <p>事例報告</p>	オムニバス、一部共同
慢性看護支援論演習 II		<p>複雑な状況にある慢性病者に対して、包括的アセスメントと活用できる社会資源や制度内容の検定から治療やケア介入の焦点を熟察し、高度実践看護に向けての視点を明らかにする。</p> <p>(オムニバス 一部共同 全15回) (13久保 美紀／5回)</p> <p>慢性疾患看護の専門領域（サブスペシャリティ）におけるフィールドワークに向けた研究計画の立案 (26喜多下 真里／4回)</p> <p>慢性疾患看護領域における看護モデルの分析・探求 (30片山 将宏／4回)</p> <p>慢性疾患看護の専門領域（サブスペシャリティ）の関心事や健康課題に対する包括的なアセスメント方法の探求 (全員／2回)</p> <p>フィールドワーク計画発表</p>	オムニバス：13回 共同：2回
慢性看護学実習 I		<p>慢性病をもつ人々との関わりを通じ、その人の体験世界を理解し、慢性病者が求める看護ケアを提供するために、高度で専門的な看護実践について学習する。また、専門看護師に求められる、教育、相談、調整、倫理調整についての実際を学習し、高度実践看護に必要な能力を見出す。</p> <p>(30片山 将宏、26喜多下 真里、13久保 美紀／共同)</p>	共同
慢性看護学実習 II		<p>医療施設から在宅、在宅から医療施設など移行期にある慢性病者に対して、基本的な医学的評価・判断に基づく薬物療法や医療処置の管理について学習を深め、既習の知識・技術を統合した包括的アセスメントを行い、高度な看護を提供する。</p> <p>(30片山 将宏、13久保 美紀／共同)</p>	共同
慢性看護学実習 III		<p>実習 I・IIで習得した実践を活かし、専門看護師としての役割獲得ができるようスーパーバイザーの指導を受けながら、学生の専門領域（subspecialty）である慢性病者に対して、倫理的な判断に基づく行動がとれる高度な看護実践を行う。また、既習の知識・技術を統合して着想された新たな看護方法の導入および開発などを含んだ、専門看護師に求められる役割の実践（実践・教育・相談・調整・研究・倫理調整）を行う。</p> <p>(13久保 美紀、30片山 将宏／共同)</p>	共同
在宅看護学特論 A		<p>わが国の在宅看護の歴史を学び、さまざまな疾病や障害を持ちながら在宅へ移行する、あるいは在宅で生活する療養者とその家族を対象とした在宅看護の視点と概念について教授する。同時に、制度の活用や関係機関・職種の役割とネットワークの構築、生活の質を重視した退院支援・調整による在宅移行の可能性を検討するケアマネジメントの過程について教授する。</p>	
在宅看護学特論 B		<p>在宅療養者・家族の健康と生活に活用できる理論やモデルを用いて、在宅看護におけるフィジカルアセスメント、家族アセスメント、セルフケアアセスメント、生活環境アセスメントの実際を理解し、健康・生活課題を明らかにする能力を養う。</p> <p>(2新井 香奈子／11回 ゲストスピーカー2回共同)</p> <p>在宅ケアにおける包括的アセスメント（日常生活・家族）及び事例検討、在宅看護における在宅看護専門看護師の役割と機能 (40駒井 和子／4回)</p> <p>在宅療養者の身体状況のアセスメント、在宅ケアにおける包括的アセスメント</p>	オムニバス

在宅看護支援論 A		複雑で多様な課題をもつ在宅療養者・家族を支え、倫理的判断・臨床的判断を統合して課題解決を見出すための在宅看護過程を展開する。また、複雑で多様な課題をもつ療養者・家族を支えるために基本となる多職種チームでのアプローチについて理解を深める。さらに、感染管理、事故予防を含んだ在宅における安全管理・リスクマネジメント上の特性について理解し、安全管理・リスクマネジメントに関する看護実践を探求する。 (2新井 香奈子／15回 ゲストスピーカー1回共同)	一部共同
在宅看護支援論 B		在宅療養者に特徴的な疾患・症状の病態と基本的な診断・治療プロセスについて教授する。医師からの包括的支持・支援のもと展開する診断・治療・生活の過程を統合した専門的なアセスメント能力とエビデンスに基づいた高度な看護実践方法の理解へつなげることができるよう教授する。 (オムニバス全15回) (2新井 香奈子／3回) 医療的ケアが必要な在宅療養者と家族への在宅看護事例検討（病態生理学の知識の活用により、より高度な看護実践への転換をはかる（ケアとキュアの融合））。在宅医療推進に向けた在宅看護専門看護師の役割。 (5藤井 誠／2回) 神経筋疾患に関する診断と治療（ALS、パーキンソン病） (38松井 善典／4回) 脳血管疾患と疾患から生じる運動機能障害、嚥下障害、高次脳機能障害などに関する診断と治療。循環器・呼吸機能障害を伴う疾患に関する診断と治療。 (ゲストスピーカー／6回) 滋賀県の医療計画（在宅医療）の動向と課題。皮膚トラブルに関する診断と治療。緩和医療と緩和ケア。緩和ケアにおけるケアとキュアの融合	オムニバス
在宅看護支援論 C		訪問看護ステーション等の在宅ケア事業所の開設や事業所安定・発展に向け、効果的な管理・運営についての具体的な方策および経営戦略について理解を深め、新たな運営管理方法・戦略の方策を探求することができるよう教授する。また、既存の理論や研究の分析を通じ、根拠に基づいた在宅看護のケア効果やケアの質管理のための方法の検討、改善策について検討し、在宅看護学領域における専門看護師の役割についての考察につなげる。 (オムニバス全15回) (2新井 香奈子／7回、ゲストスピーカー2回共同) 在宅看護に関するケアの効果と質の評価方法。在宅看護の経営管理。在宅看護の質保証。 (40駒井 和子／8回) 訪問看護ステーションの管理運営。在宅看護に関するケアの効果と質の評価方法。	オムニバス
在宅看護支援論演習 I		医療的ケアの必要な療養者の医療処置、看護、療養者・家族への指導、多職種連携に関する実践方法および課題について、文献検討やフィールドワークを通して明らかにする。また、医療機器を活用して生きる在宅神経難病患者の事例を通して、疾病的受容と療養方針の決定の支援、医療機関から在宅への移行期、在宅療養開始時、在宅療養継続等、各期の療養者・家族支援を検討する。	
在宅看護支援論演習 II		複雑で多様な課題を有し、終末期を迎える在宅療養者と家族の的確なニーズ把握とケア実践、課題について、文献検討やフィールドワークを通じ理解を深める。さらに、エビデンスに基づいた高度な看護実践を展開する方略について探求する。	
在宅看護学実習 I		医療的ケアを必要とし、多問題や困難課題をもつ事例を3例以上受け持ち、看護過程を展開し、看護実践を行う。これらの実践を通じ、専門看護師が備えるべき6つの能力のうち、卓越した実践能力を中心とした実践能力の向上に、教育、相談、連携調整、倫理的問題の調整、看護実践を評価するための方法について学習し、研究的視座を持って課題を見出すことにつなげる。	
在宅看護学実習 II		終末期ケアにおいて、多問題や困難課題をもつ事例を3例以上受け持ち、看護過程を展開し、看護実践を行う。これらの過程を通じ、専門看護師が備えるべき6つの能力のうち、卓越した実践能力を中心とした実践能力の向上に、教育、相談、連携調整、倫理的問題の調整、看護実践を評価するための方法について学習し、研究的視座を持って課題を見出すことにつなげる。	
在宅看護学実習 III		病院の退院調整部門で実習を行い、在宅看護の開始に向けて医療機関で行われる具体的な支援についての学びや、在宅移行期における継続看護の実際を通じ、多職種連携における在宅医療チームの中での専門看護師の役割を理解できるよう教授する。訪問看護事業所で実習を行い、事業所の開設、管理・運営についての具体的な方法を学ぶことを通じ、ケアの質向上のために、管理者が行う、職場環境の整備やスタッフの人文育成における実際の活動について理解できるよう教授する。本実習では、在宅看護学実習I・IIで修得した専門看護師の能力を統合し、6つの能力のうち特に教育、相談、連携調整、倫理的問題の調整に関する高度実践能力を高めることにつなげる。	
助産学概論		助産の概念を理解し、助産学の理論的基盤とともに助産実践や教育の歴史的変遷について教授する。また、助産師が高度実践専門職として果たすべき社会的役割について考察するとともに、助産学領域の課題についても探究する。	

助産学特論 I		リプロダクションに関する解剖・生理・疾患について講述する。リプロダクティブ・ヘルス/ライツに保障されている全ての人がともに持つ権利について理解し、さらにリプロダクティブ・ヘルス/ライツを確保していくために、現状から生じる課題を明らかにして解決していくための提言を考察することができる。また、リプロダクティブ・ヘルス/ライツの視点から、女性の健康支援のあり方と助産師の役割について学ぶ。 (オムニバス全15回) (16板谷 裕美／13回) SRHRを取りまく現状と課題に関する講義 (11越山 雅文／2回) リプロダクティブヘルスに関連する解剖生理の講義	オムニバス
助産学特論 II		主に妊娠分娩の異常に関してスライドで解説。周産期女性の健康に関する薬理・薬剤学、栄養学、母子免疫・母子感染、遺伝等に関する基礎知識について理解する。ハイリスク状態の妊娠褥婦に関する診断・治療のための医学的知識を身につける。	
助産学特論 III		助産師が健康管理に活用できる理論について学習した上で、個人あるいは集団に対する健康管理を展開するための方法論について探究する。また、個別指導案の作成を通して、対象にとっての効果的な健康管理のあり方について考察する。	
助産診断技術学特論 I		妊娠の成立から妊娠期の母体の変化、胎児の成長発達に関する健康管理の方法について理解し、フィジカルアセスメント技術を習得し、エビデンスに基づいた助産ケアを探求する。妊娠・胎児期の助産診断と助産ケアについてその原理と技法を学び、妊娠及び胎児の健康維持増進、健康問題解決のための対応能力を養う。	
助産診断技術学特論 II		分娩経過に基づいた産婦の心身の変化および胎児に関するフィジカルアセスメント、および助産技法を習得する。産婦の正常性の判断から正常逸脱のリスク診断、異常時のアセスメント能力とその対応能力を養う。	
助産診断技術学特論 III		産褥・新生児期・乳幼児期における助産診断過程に必要な知識・技術を修得する。分娩経過に基づいた褥婦の心身の変化および新生児の成長・発達と、新たな家族関係形成に必要な診断とケアについて講義し、各期のフィジカルアセスメントおよび助産ケアの技法を習得する。ハイリスク状態にある、またはハイリスク状態が予測される褥婦・新生児のアセスメントとケアに必要な知識を習得する。	
実践助産学演習 I		妊娠期から分娩期、産褥期、および新生児期の助産過程展開の演習を通して、各期の助産実践に必要な知識と助産診断・技術について習得する。具体的には、妊娠期の助産過程の展開、妊婦健康診査演習、分娩期の助産過程の展開・分娩介助演習、産褥期の助産過程の展開、産褥母子支援技術演習、新生児期の助産過程の展開、新生児支援技術演習を進めていく。 (オムニバス全45回) (25渡邊友美子／15回) 担当内容：分娩期 (17古川 洋子／15回) 担当内容：妊娠期 (32樋口 優子／15回) 担当内容：産褥期・新生児期	オムニバス
実践助産学演習 II		助産師技術に関する講義（スライド/ハンドアウト使用）と演習。胎児・新生児診断とケア技術および産科処置の修得を行う。演習中では、浮田医院にて実際の胎児を超音波診断する。評価は演習参加と実践演習テストおよびペーパーテストで行う。	
助産マネジメント特論		助産管理や助産業務管理の基本、周産期における医療安全や危機管理の知識と法的根拠・責任を理解し、安全かつ効率的に助産業務を遂行するための基本的知識を修得する。さらに周産期医療体制における地域連携の現状と課題についても学ぶ。	
地域母子保健特論		地域で母子保健活動を推進する上で必要な行政の仕組みや制度・施策・事業内容について学習するとともに、妊婦や母子にとっての地域社会の現状と課題を明らかにする。また、地域における助産師の具体的活動を把握し、助産師の役割と課題についての考察を深める。 (16板谷 裕美／12回) 地域母子保健の動向と課題、主な母子保健施策 母子保健の意義、歴史的変遷、地域での助産師活動、地域社会における母子保健事業の実際 地域のさまざまな場における助産師の役割、母子保健活動の展望 (ゲストスピーカー／5回) 地域社会における母子保健事業の実際、地域で暮らす妊婦や母子の現状と課題	
助産学実習 I		実習病院の産婦人科外来および周産期病棟において展開される、妊婦健康診査や助産師出等での保健指導を通じて、妊娠各期の助産診断・助産ケアについて習得する。さらに、助産学実習IIへの前段階的実習と位置づけ、正常な経過をたどる産婦の助産診断に基づく安全な分娩介助技術を1~2例習得するとともに、産褥・新生児期の健康診査・保健指導に必要な基本的実践能力を習得する。 (25渡邊 友美子、12千葉 陽子、16板谷 裕美、17古川 洋子、31松原 千晴、32樋口 優子／共同)	共同
助産学実習 II		分娩・産褥期の健康診査および新生児期にある対象の健康診査から、適切な助産診断を行い、それに基づく助産過程を展開するとともに、エビデンスに基づく安全な分娩介助技術と健康教育を実践する。これらを通じて、専門職助産師としての役割と責務、および高度な実践能力と態度を養う。女性の分娩・産褥期から育児期、児の新生児期から乳児期に至る継続したケアを見据え、個別性に応じた女性中心のケア（Women-centered care）について省察する。 (25渡邊 友美子、12千葉 陽子、16板谷 裕美、17古川 洋子、31松原 千晴、32樋口 優子／共同)	共同

助産学実習III		【目的】地域における母子保健業務の実際を学び、望ましい援助のあり方や自律した助産師としての姿勢を追求するとともに、専門職としてのアイデンティティ形成をめざす。【目標】1) 地域における女性、子ども、家族のニーズや多様性を理解し、プライバシー、安全性、快適性を尊重した社会生活への援助について考察できる。2) 地域における助産師の役割や、多職種・他機関連携、政策や制度とのつながりを理解し、今後の助産活動のあり方について考察できる。3) 対象者およびその家族の尊厳、権利、価値観、ニーズを尊重し、信頼関係に基づいたケアの実践を通して、助産師としてのアイデンティティの基盤を形成できる。 (17古川 洋子、16板谷 裕美、31松原 千晴／共同)	共同
ウィメンズヘルス助産学特論		女性のライフサイクル全般にわたる健康およびその支援に必要な基礎的知識について、概論的に講義をするとともに、女性の健康問題とその支援に関するディスカッションを行う。	
ウィメンズヘルス助産学演習		助産師としてエビデンスに基づいた自律的活動と研究に向けEBPM (Evidence Based Practice in Midwifery) とは何かについて理解し、ウィメンズヘルス助産学に関する国内外の助産ケア文献やガイドラインの検索、クリティカル、ディスカッション等を通じて自己の研究課題の絞込みと明確化を目指す。 (16板谷 裕美、17古川 洋子、12千葉 陽子、25渡邊 友美子、31松原 千晴／15回共同)	共同
周産期包括支援特論		医療、母子保健、児童福祉、社会福祉、学校教育など周産期における切れ目ない健康支援かつ理論的根拠を学び、多職種連携から見た健康支援のあり方を探究することを目的に、概論的に講義を進める。講義中に、妊娠から出産、産後育児期にある子育て世代の包括的な健康支援、多職種連携に関するプレゼンテーションとディスカッションも組み入れ、支援の方法を学ぶ。思春期から青年期の性教育やブレセントレーションケアについても言及する。	
周産期包括支援演習		周産期にある対象やその家族への包括的支援システムのあり方について学びを深め、どのような経緯のもと、どこに向かおうとしているのかを実態から探究する。母子を取り巻く地域社会の現状を鑑み、問題から課題を理解し、周産期のみならず思春期も含め、妊孕性を包含し助産師の役割について探究する。周産期に関する包括的支援に関する行政や施策への提言を考察し、専門職連携をふまえた多角的視点から考察を深める。	
助産倫理特論		リプロダクティブヘルス・ライツ領域に特化した事例の倫理的課題の検討を通じて、対象者およびその家族の倫理的意意思決定プロセスを支援するための方法を探求する。また助産師としてアドボケーターの役割を遂行することの必要性を学ぶ。 (オムニバス全15回) (16板谷 裕美／5回) 倫理的意意思決定に必要な基本概念と主要理論、カウンセリング技法、オタワ意思決定支援ガイドについての講義 (25渡邊 友美子／5回) ケースで考える生命倫理の講義演習 (32樋口 優子／5回) 担当内容：ケースで考える生命倫理の講義演習	オムニバス
国際助産学特論		助産師としてグローバルな視点で活動できる能力を培うために、リプロダクティブヘルス・ライツに関する事象の諸外国の現状や、日本国内での国際化の状況を取りあげ、その歴史的・社会的背景や助産師の役割について考察する。特に妊娠・出産・子育てについては、医療体制やマタニティケアシステム、助産師制度、家族の在り方やジェンダーなど多角的な視点で各国の事象をとらえ、わが国との共通点や相違点を探究する。	
健康教育演習		マタニティステージにおける集団での健康教育（出産準備教育）の実際を見学し、健康教育を計画・実施・評価するという一連を体験することを通して、健康教育における理論と実践、有効性、課題を追求する。 (25渡邊友美子／31松原 千晴／15回)	共同
助産学実習IV		1. 実習目的ハイリスクな状態にある妊娠複数胎や母子分離状況にある母子とその家族を対象に、個別な特性に応じた助産ケアを提供する能力を修得するとともに、高度な助産実践に必要な理論・知識・技術・倫理的態度を修得する。 2. 実習目標ハイリスク状態にある妊娠複数胎および胎児・新生児管理の実際を理解し、対象のリスクアセスメントができる。ハイリスク妊娠複数胎・新生児の身体・心理社会的状況に応じて必要な助産ケアを判断し、実践できる。母子分離状況にある母子とその家族のニーズを理解し、愛着形成の促進や、母乳育児支援、継続的な家族支援のあり方について考察できる。他職種との協同や他機関との連携を理解し、チームの一員である助産師としての役割を認識し、責任ある行動が取れる。周産期におけるハイリスク事例の助産ケア実践を通して、助産師の役割や責務について考察できる。	
助産学実習V		助産所や病院の産科病棟において組織・記録・財務・業務管理や他部門・他職種や地域との連携の実際を見学し、助産業務管理における助産師の役割を学ぶ。また、実習先の周産期医療体制における位置づけやリスクマネジメントの実際についても具体的に把握する。	
特別研究 (課題研究)	基盤看護学特別研究	基盤看護学分野では、当該領域の専門的な知識と研究方法・技術等を適用し、実証的・開発的な研究を指導する。 専門基礎領域 (5藤井 誠) ・看護実践者の実践や暗黙知を数理的に定量化し評価する研究 ・社会のニーズを的確に把握し看護実践に活用する研究 ・数理保健学・看護研究のための臨床疫学に関する研究	

	<p>基礎看護学領域 (1)伊丹 君和 ・看護学教育（基礎教育・現任教育）に関する研究 ・看護・介護職および看護学生を対象とした腰痛予防教育システムの開発と評価 ・看護技術のエビデンスの検証および学習支援システムの構築 ・看護職または養護教諭のキャリア発達支援に関する研究</p> <p>(3)本田 可奈子 ・専門職教育（基礎教育・現任教育・クリティカルケア看護）に関する研究 ・看護マネジメント全般、特に看護職のキャリア開発に関する研究 ・ICTを用いたシミュレーション学習方法の開発と評価 ・臨床看護倫理（クリティカルケア看護領域が中心）に関する研究</p> <p>(14)米田 照美 ・視線計測による看護師・看護学生の危険認知に関する観察眼の解明 ・看護師・看護学生の医療安全教育の設計と評価 ・看護職・看護学生の腰痛予防教育システムの開発と評価</p> <p>(22)関 恵子 ・壮年期・老年期女性のサルコペニア早期発見および予防プログラムの開発と評価 ・看護マッサージ手技教育支援システムの開発と評価 ・看護・介護職および看護学生を対象とした腰痛緩和ケア方法の開発と評価</p> <p>精神看護学領域 (4)牧野 耕次 ・精神科看護における患者-看護師関係におけるインボルブメント ・学校における精神保健に関する研究 ・自殺防止対策に関する研究</p> <p>(21)川田 陽子 ・重症かつ慢性精神疾患患者の地域定着における看護実践プロトコールの開発 ・複雑性PTSD患者に対するポリヴェーガル理論に基づく看護実践 ・性的マイナリティのメンタルヘルスに関する研究</p> <p>在宅看護学領域 (2)新井 香奈子 ・地域包括ケアと地域・在宅看護および看護職の役割 ・住み慣れた地域での自分らしい生活を支える予防的視点からの看護ケア方法の開発 ・地域包括ケアを支える地域・在宅看護学教育および現任教育</p> <p>(23)國丸 周平 ・地域・在宅看護学における実習教育に関する研究 ・意思決定支援に関する研究</p> <p>公衆衛生看護学領域 (19)小林 孝子 ・発達障害のある女性の妊娠・出産・育児に関する研究 ・子育て中の安心に関する研究</p> <p>(20)馬場 文 ・児童虐待防止と支援者支援に関する研究 ・公衆衛生看護教育（保健師教育）に関する研究</p>	
生涯健康看護学特別研究	<p>生涯健康看護学分野では、対象となる人々とその家族の健康増進および継続的な療養生活を支援・評価するための研究を指導する。</p> <p>母性看護学領域 (11)越山 雅文 ・妊娠下肢浮腫の診断・治療 ・妊娠血栓予防 ・子宮頸部異形成の治療</p> <p>(12)千葉 陽子 ・女性の健康とバイオマーカーに関する研究 ・助産ケアの向上に関する研究</p> <p>(16)板谷 裕美 ・授乳女性の母乳育児支援に関する研究 ・助産師のキャリア発達支援に関する研究 ・月经と女性の健康に関する研究</p> <p>(17)古川 洋子 ・助産師のプレコンセプションケアに関する研究 ・助産師の包括的性教育に関する研究 ・女性の産み育てに関する研究</p> <p>(31)松原 千晴 ・就労女性の健康教育に関する研究 ・不妊治療と周産期メンタルヘルスに関する研究</p> <p>(25)渡邊 友美子 ・子育て支援に関する研究 ・子ども虐待の予防に関する研究</p>	

	<p>小児看護学領域 (9 古株 ひろみ) • 障害がある子どもの支援に関する研究 • プレバレーションなど子どもの権利（擁護）に関する研究</p> <p>(8 竹村 淳子) • 重複障がいがある子どもと家族の支援に関する研究 • 小児看護学実習に関する研究</p> <p>(18川端 智子) • 未成年の喫煙防止に関する研究 • プレバレーション等子どもの権利擁護に関する研究</p> <p>(24玉川 あゆみ) • 発達障害児の医療機関受診支援に関する研究 • プレバレーション等子どもの権利擁護に関する研究</p> <p>成人看護学領域 (10糸島 陽子) • 高齢者・終末期の意思決定支援に関する研究 • エンドオブライフケアに関する研究</p> <p>(13久保 美紀) • 慢性心不全患者の疾患管理に関する研究 • 社会経済的状況と慢性疾患の有病に関する研究 • 慢性心疾患高齢者のソーシャルサポートに関する研究</p> <p>(7 赤澤 千春) • クリティカル看護ケアにおけるSOCに関する研究 • 移植・再生医療における看護ケアに関する研究</p> <p>(15荒川 千登世) • 急性期・回復期看護におけるリンパ浮腫に対するセルフケア</p> <p>(29生田 宴里) • 救急領域における看護師の惨事ストレスに関する研究</p> <p>(27小野 あゆみ) • 慢性肝疾患患者に対する集団教育に関する研究</p> <p>(30片山 将宏) • 脳卒中患者のセルフマネジメントに関する研究 • リハビリテーション看護に関する研究</p> <p>(26喜多下 真里) • がん患者の精神的健康やQOLに関する研究 • がん看護、緩和ケアに関する研究</p> <p>老年看護学領域 (6岡本 紀子) • 高齢者の肺炎予防のためのセルフケア • ケア提供者の感染予防の意識</p> <p>(28松井 宏樹) • 認知症高齢者の行動・心理症状に関する研究</p>	
助産学特別研究	<p>助産実践を通して生じた研究課題を取り上げ、実証的に研究を行う能力を養う。質的研究について、量的研究について、研究デザインの作り方、統計について、バイアスと交絡について学ぶ。</p> <p>助産学領域 (11越山 雅文) • 妊婦下肢浮腫の診断・治療 • 妊婦血栓予防 • 子宮頸部異形成の治療</p> <p>(12千葉 陽子) • 女性的健康とバイオマーカーに関する研究 • 助産ケアの向上に関する研究</p> <p>(16板谷 裕美) • 授乳女性の母乳育児支援に関する研究 • 助産師のキャリア発達支援に関する研究 • 月経と女性の健康に関する研究</p> <p>(17古川 洋子) • 助産師のプレコンセプションケアに関する研究 • 助産師の包括的性教育に関する研究 • 女性の産み育てに関する研究</p>	
高度実践看護学課題研究	<p>専門領域の看護実践と文献クリティックを通して、自己の研究課題を明確にし、研究のプロセスにそって研究を行い、看護実践に寄与する知見や技術を探求し、論文にまとめる。課題研究を通して、専門看護師として必要な研究能力を習得する。</p> <p>慢性疾患看護分野 (10糸島 陽子) • 高齢者・終末期の意思決定支援に関する研究 • エンドオブライフケアに関する研究</p> <p>(13久保 美紀) • 慢性心不全患者の疾患管理に関する研究 • 社会経済的状況と慢性疾患の有病に関する研究 • 慢性心疾患高齢者のソーシャルサポートに関する研究</p> <p>在宅看護分野 (2新井 香奈子) • 地域包括ケアと地域・在宅看護および看護職の役割 • 住み慣れた地域での自分らしい生活を支える予防的視点からの看護ケア方法の開発 • 地域包括ケアを支える地域・在宅看護学教育および現任教育</p>	